

次世代型学習コンテンツプロデューサー育成プロジェクト【国立科学博物館】

目的・ 目標

博物館標本・資料の超高精細デジタル化を推進し、それらを活用した展示・学習プログラムを実施するとともに、学習コンテンツを通じたコミュニケーションモデルを提案することで、アジアの博物館における科学教育振興のセンターとなることを目指す。

概要

国立科学博物館がもつ展示や学習支援事業のノウハウ、映像コンテンツ制作会社のメンバーで組織するイノベティブ映像開発ユニットがもつ映像制作や教育番組制作のノウハウを統合し、博物館標本を実空間、仮想空間、マスメディア等の特性に応じて効果的に活用できる「次世代型学習コンテンツプロデューサー」を育成する。

3年目までの取組

博物館標本について、イノベティブ映像開発ユニットによる高付加価値化した超高精細コンテンツを作成し、展示や学習プログラム等の学習コンテンツの制作の取組を進めることにより、「次世代型学習コンテンツプロデューサー」の育成を行う。



5年目までの取組

「次世代型学習コンテンツプロデューサー」による超高精細コンテンツを活用した学習コンテンツの制作を行うとともに、それらを活用したコミュニケーションモデルの提案を行うことにより、アジアの博物館における科学教育振興のセンターとなることを目指す。

中核となるクリエイターやアドバイザー

篠田謙一

(国立科学博物館長)

古人骨のDNAを分析し、日本人の起源や人類の世界拡散について研究
「科博と科学」「人類の起源」他著書多数、幅広い分野の特別展を監修



育成対象者：14人

国立科学博物館
・コンテンツクリエイター

映像コンテンツ制作会社
・映像クリエイター

デジタル・アーカイブ化

- ・ 超高精細 3 DCG

国内展示

- ・ 企画展示 (2026年)
- ・ イベント実施 (2026年) ほか

海外展開

- ・ アジアの博物館 (2028年)

成果目標 (見込)

目標値

文化施設の展示活動に対する 専門誌・専門家・批評家等による 評価数 (高評価)	10件
デジタル作品 (デジタル・ アーカイブ化含む) の発信数	10件
展示や番組等のコンテンツ開発数	2件
プロモート等の取組数	2件

実施体制図

